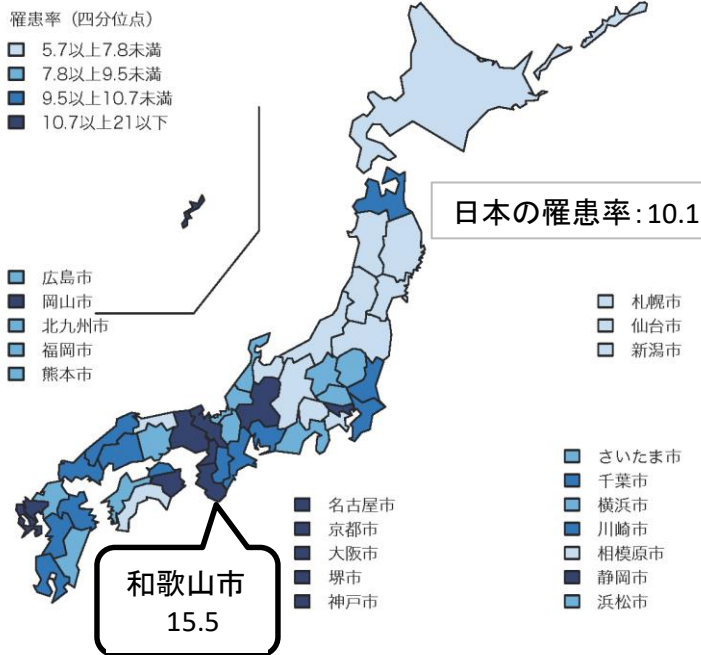


9月24日～30日は、結核予防週間です。

結核 誰もがかかる どこにでもある

結核は過去の病気だと思いませんか？

全結核罹患率(人口10万対)2020



結核とは、結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気です。結核患者の咳などで菌が空気中に飛散し、周りの人がそれを直接吸い込むことで感染します。

日本では1950年代まで、結核は死亡原因の第1位でした。現在は薬を飲めば完治できる時代になりましたが、今でも1日に40人が診断され、6人が亡くなっています。

和歌山市は全国罹患率を上回っている状況です！

出典: 公益財団法人 結核予防会 結核研究所 疫学情報センター

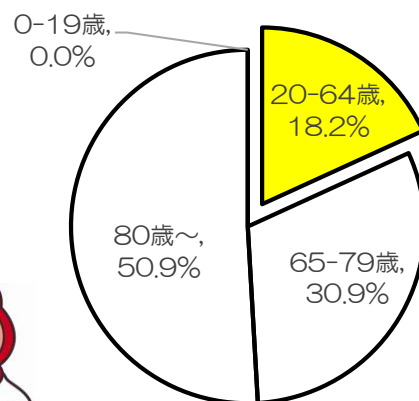


「若者」や「働き盛りの世代」も要注意!!

結核患者の約半数は80歳以上ですが、就労世代(20歳以上65歳未満)の方々も2割ほどを占めています。

働き盛りの方は職場などで多くの人々に接する機会があるため、結核の診断が遅れた場合、**感染が特に広がってしまう恐れがあります。**

令和2年和歌山市の年齢別結核患者割合
(新規登録患者 n=55人)





忙しい毎日、その咳いつからですか？

結核の主な症状

肺結核の症状は、風邪等の呼吸器系の病気の症状とよく似ています。次のような症状が続くようでしたら、医療機関を受診しましょう。



長引く咳(2週間以上続く)

痰がでる(痰に血が混ざる) 身体がだるい、活力がでない

発熱(微熱が続く) 胸の痛み 体重減少 など

薬をきちんと飲めば治ります。

結核と診断されても、きちんと薬を服用すれば治ります。早期に発見すれば入院せずに、仕事をしながら治療をすることができます。



症状がなくても、年に1度は胸部X線検査を受けましょう!

新型コロナウイルス感染症と異なり、結核の感染経路は空気感染です。結核菌は空気中を漂う時間が長く、誰もが感染する可能性があります。

自分自身の重症化を防ぐことはもちろん、家族や職場への感染を防ぐためにも、早期発見・早期治療が重要です。

症状がなくても、年に1度は胸部X線検査で肺の健康状態を確認しましょう。



シールぼうやは結核予防のキャラクターです。

和歌山市の結核の現状は、
和歌山市感染症情報センターのホームページに掲載しています
<http://www.kansen-wakayama.jp/page/page005.html>

